夢かなうも…

町内唯一の少年野球チーム　**白老町少年野球クラブ**　仲間大募集

全道切符獲得自信に　「残りシーズンも頑張ります！」

広報編集室 げんきまち通信

全道切符獲得も大会はコロナで中止

白老町少年野球クラブ（工藤剛監督、10人）の７選手は、ときわ澄川ライオンズ（苫小牧）として、５月に行われた第42回スタルヒン杯争奪全道スポーツ少年団軟式野球交流大会の苫小牧支部予選に出場。順調にコマを進めた「ときわ」でしたが、３試合目の準決勝は山丸君、松尾君に２塁打が飛び出すも惜しくも１点差で敗退。３位決定戦は山丸君、阿部君の３塁打などで逆に１点差をものにするなど６年生らがしぶとさを発揮。16チーム中３位に輝き、全道切符を手に入れました。

町内の野球チームとしては実に８年ぶりの大舞台進出でした。キャプテンの阿部慎太朗君と山丸滉介君（ともに白老小６年）、松尾圭祐君（萩野小６年）、冨田龍雅君、須貝瞬君、大塩櫂士君（以上白老小５年）、村岡大輝君（同小４年）は「チーム一丸となって優勝を目指したい」と、全道大会（旭川市、９月４・５日）出場を楽しみに意気込んでいましたが、開催直前、新型コロナウイルス感染拡大抑止に向けた緊急事態宣言が本道に発令され、大会は中止となりました。「えー！」という驚きとともに「残念」「悔しい」と意気消沈しましたが、全道切符獲得を糧（力づけるもの）に「ひとつでも多く試合をしたい」「残りシーズンを悔いのないように全力で」と何とか気持ちを切り替えました。

団員不足、さらにコロナ禍、でも続けたい！

同チームは平成26年、萩野フラップと緑丘ファイターズが合併し発足しました。かつて町内の少年野球は５、６チームはあったらしく、全道、全国大会に進出し上位を勝ち取り、プロ野球選手を輩出するほどでした。それが少子化や選択肢の多様化などに伴い、現在は同チームが町内唯一の野球スポーツ少年団です。団員も少なく小学２年から６年まで10人。大会の学年制限による４年以上となると上記７人で、来春卒業の６年生が３人います。本大会も苫小牧のチームとして出場しました。選手７人に今後の抱負を聞いた後、「ほかに原稿に書いてほしいことはあるか」と尋ねると、「一人でも仲間に入ってほしい！」と口をそろえました。

工藤監督は「『あいさつ』『声を出して最後まで諦めない』『全員野球』がチームカラーです。とにかく野球がしたい子の受け皿として父母や関係者らとともに支えたい」と話していました。

同チームに関する問い合わせは工藤監督（☎090－3395－4851）へ。練習参観・体験も歓迎です。

後記

大会中止に伴い、予定されていた戸田町長への表敬訪問も中止となりました。律儀に訪問時の取材を依頼してきた町教委のN君。「じゃあ記事はボツになるねえ」との（竹）の応答に、ねちねちとすぐに電話を切りません。N君もアイスホッケーでならしたアスリート。何らかの形で頑張っている子どもたちを紹介してほしい」という気持ちがあったのでしょう。「分かった。じゃあトーンを変えて紹介するわ」となりました。

日ごろ（竹）が感じているのは、少子化による子どもたちのスポーツ環境の低迷と、コロナ禍が子どもたちに落とす影の大きさでした。やりたくても受け皿がない、人数が少ない、そして今はコロナ禍で活動が制限…と、しょうがない現実とはいえ、子どもたちにとっては非常に息苦しい環境に思えます。

子どもたちは何をするにしても、例えば移動や安全の関係で親の送迎が必要になるなど、大人の理解と協力が必要です。少子化をただ憂うだけではなく、子どもの「やりたい！」という思いをかなえるには、家族はもちろん、行政や学校、事業所、地域、個人と、それぞれの立場で環境を整えてあげることが大切な時代かもしれません。N君のようにちょこっとできる範囲内でも。（竹）

町民意見募集

白老町債権管理条例案

日程（予定）	内　　容
10月１日㈮ ～ 11月１日㈪	町の債権は、町税や国民健康保険税のほか、公共施設の使用料や貸付金の償還金など多岐にわたります。町全体で統一したルールを定め、債権を適正管理するため条例を制定します。

◆資料配布・閲覧場所：役場、各出張所、いきいき４・６、白老コミセン、図書館、町ホームページ

◆意見の提出方法：配布場所への持参、郵送、ファクス（82－5574）、町ホームページから担当課へのＥメール

問い合わせ先：税務課　債権管理室　☎８２－２６５９